



き しゅ そ

気腫疽が発生しました

平成27年10月19日、管内1農場の育成牛1頭で、届出伝染病の「気腫疽」が発生しました。平成27年1月からの管内発生は、3頭目となります。

細菌(気腫疽菌)感染が原因です

- 菌は傷口から侵入し、筋肉で増殖、毒素を産生します。
- 菌は世界中の土壌や動物の腸管内に存在します。
- 主に反すう動物に感染し、道内でも、散発しています。
- 気腫疽菌は土壌や環境中で「芽胞(がほう)」という殻を作り、長期間生存します。



発生例 : 右足が腫れています

症状

はこう

- 突然の高熱、急死、跛行(歩き方に異常が見られる)
- 肩や四肢、お尻の筋肉の腫れ
(腫れた部位はガスが溜まり、プチプチとした感触が感じられる)
- 発症後1~2日で死亡する(発症すると高致死率)

対策

- 有効な治療法は確立されていません。
- 発症予防のため、ワクチンを定期的に接種しましょう。
- 気腫疽菌は長期間、環境中に生き残るため、日頃から牛舎・パドックの定期的な清掃・消毒、踏込消毒槽の設置をし、汚染の拡大と感染防止に努めましょう。
(有効な消毒薬は消石灰・塩素系・ヨード剤です)
- 原因不明で突然死亡した牛は、速やかに獣医師に通報し、検案してもらいましょう。